



テクニカル・メッセージ

エアフローセンサ 定期点検実施のお願いと点検方法のお知らせ

エアフローセンサはエンジンの燃焼や排気ガスに関わる部品です。定期点検部品となっていますので、定められた時期に点検をお願いします。

また、エアフローセンサについてより適確な点検整備をしていただくための点検手順・交換基準をご案内します。

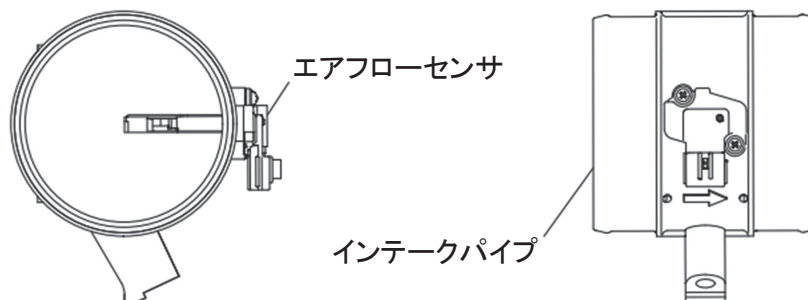
■ 対象車両

ポスト新長期規制 大型トラック（E13C エンジン搭載車）

ポスト新長期規制 中型トラック（A05C エンジン搭載車）

■ エアフローセンサの役割

エアフローセンサはエンジンに供給する空気の流量を測定し、測定したデータをエンジン ECU へ送ることで、エンジンの燃焼を最適化しています。



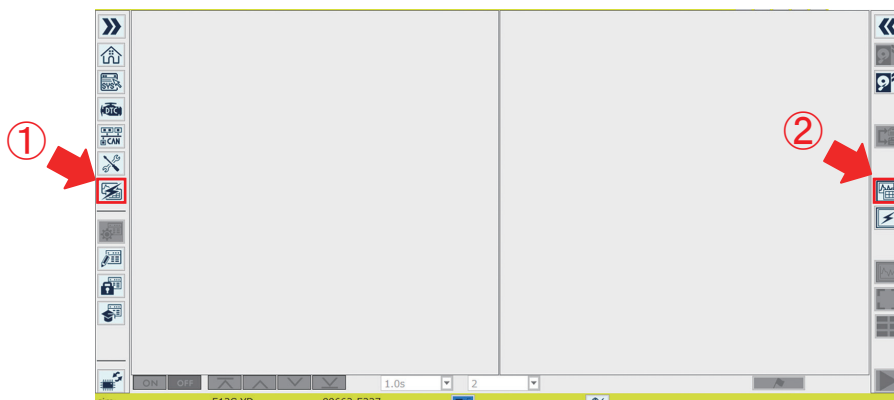
■ エアフローセンサの点検手順

【注意点】

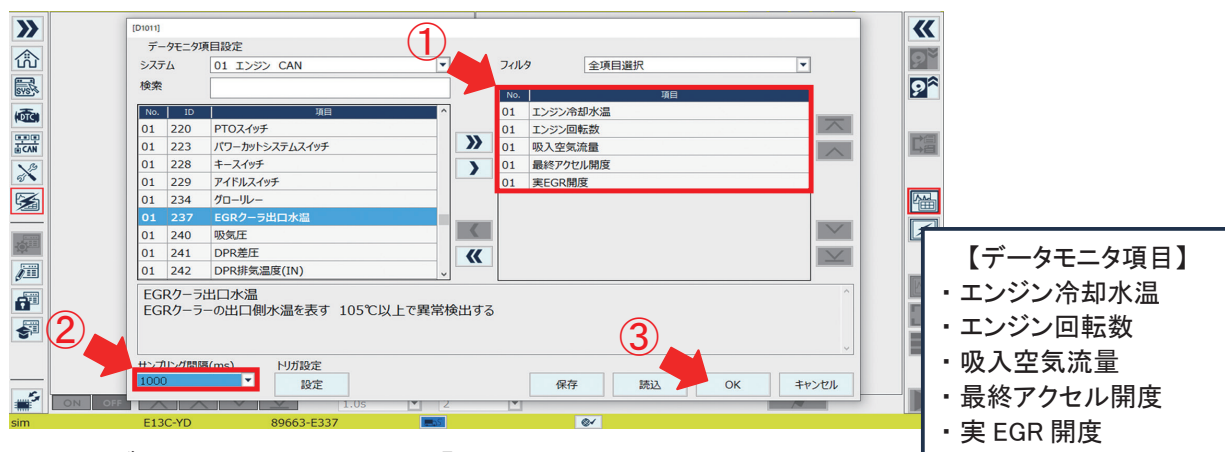
- ・エアフローセンサの点検は12か月ごとに実施してください。
- ・「故障診断機を使用したEGR点検」を行う前に、このエアフローセンサ点検を実施してください。
- ・エアフローセンサの点検には故障診断機（HINO DX Light 等）が必要です。

【点検手順】

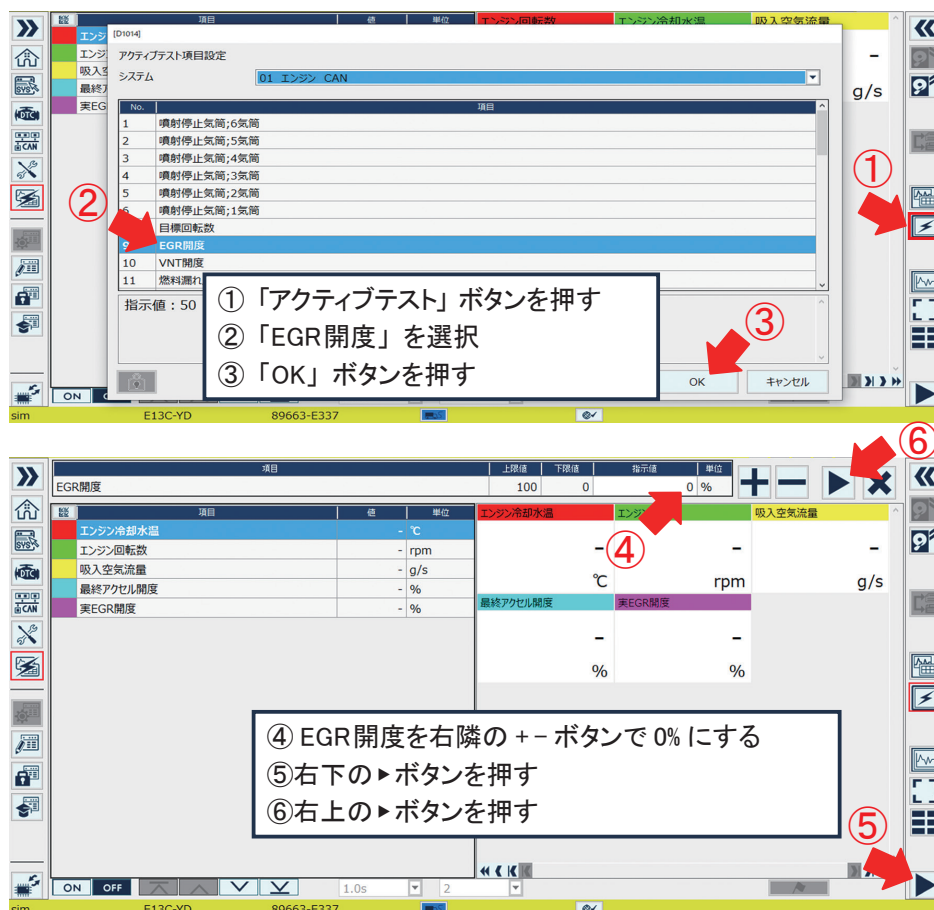
1. 車両に故障診断機を接続する。
2. 故障診断機のデータモニタを使用して、NMR（無負荷最高回転数）時の吸入空気量を計測する。
⇒①「データモニタ & アクティブテスト」タブ ⇒②「データモニタ」ボタン



- a. エンジンの冷却水温が 65℃以上になるようにエンジンを暖機する。
- b. ①データモニタの項目を下図のように選択し、②サンプリング間隔を 1,000 ms に設定する。



- c. アクティブテストの項目設定にて「EGR開度」を0%にする。
- d. エンジンが完全に暖機された状態から周囲の安全を確認し、アイドル状態からアクセルをいっぱい踏み込み、エンジン回転数を安定させる（アクセルを踏み続ける）。
- ※吸入空気量のモニターは、エアコンプレッサーによるエアタンクの充填が行われていないときに行う。



3. エアフローセンサ特性劣化の有無を判定する。

- a. エンジン回転数が安定したところで、吸入空気量を30秒間モニターし基準値の範囲にあることを確認する。

点検項目	エンジン型式・車型	基準値
吸入空気量	E13C-YJ, YK 以外のカーゴ系	190 g/s 以上
	E13C-YJ, YK 以外のダンプ	195 g/s 以上
	E13C-YJ, YK	200 g/s 以上
	A05C-TA	80 g/s 以上

- b. 吸入空気量が基準値から外れている場合は、エアフローセンサを新品に交換する。